

JTU きょうと教組
日本教職員組合
NEWS LETTER

2018年2月1日発行 No.85

京都府教職員組合 小鍛冶 啓

Kyoto School Staff Union

Tel:075-252-6771

Fax:075-252-6772

<http://kyoto-union.net>



第22回近畿ブロック青年部交流学習会

集まれば元気になる！

来年は、京都で！！



1月13日(土)・14日(日)、雪景色の滋賀県ピアザ淡海で、第22回近畿ブロック青年部交流学習会が開催されました。近畿各地から青年部150名が集合。全体会、参加体験型の8つの分科会、少人数グループに分かれて思いや意見、悩みを交流し合える分散会、盛り上がる交流会・・・と、充実した盛りだくさんの内容で、最後はきょうと教組松川青年部長の次年度開催宣言で、熱気に包まれた2日間が締めくくられました。

京都開催に向けて、取り組みを開始している青年部を、みんなで盛り上げていきましょう。

京都市内人権フィールドワーク@2017 近畿中国四国女性部長会

話を聞くだけでは得ることのできない出会い



『2017 近畿中国四国女性部長会』が、2017年12月23日(土)・24日(日)に京都で開催されました。1日目は日教組女性部長内海早苗さんからの中央情勢報告と近畿中国四国各府県女性部長の情報交換が中心の内容でした。2日目は2つのコースに別れての京都市内人権フィールドワークで、女性部長以外のきょうと教組の組合員の参加が有りました。「『パッチギ』ゆかりの土地で、在日コリアンと日本人の共生の歴史を歩くコース」に参加した大江書記長の報告です。

およそ25年前、教師になりたての私はさまざまな人権問題について分からないことだらけでした。講演会やフィールドワークなど学べるチャンスがあると聞くと、いろいろなところに出かけ、“知る”ことに必死でした。そのころに訪れた記憶がある東九条。そのとき目の前にある在日コリアンがおかれた厳しい現実には差別の不合理を感じたことを思い出しながら、集合場所である東松ノ木団地の集会所に向かいました。そこで「東九条まちづくりサポートセンターまめもやし」の事務局長である村木美都子さんからまちの歴史を聴きました。「あ〜こんなだった…」と思いながら写真を見ている集会所はとても新しい建物の中。25年の間に東九条のまちは変化していました。「変わらないのは人と人のつながり。」と村木さんは言います。戦後生き抜いてきたオモニやアボジたちはきれいになった改良住宅に住みながら、厳しい環境で支え合いながら暮らしたころのつながりを保ち、新たに加わる住民を受け入れているそうです。そして、住民だけでなく、私たちのようなその歴史を学びにくる者も、あたたかく迎え入れてくださいました。部屋に入れて声を聞かせてくれたオモニ、フィールドワークに参加してずっと一緒に歩いたオモニ。講演会では得ることのできない出会いがありました。川沿いを歩きながら村木さんが「話を聴いているとすばらしいと思うでしょ。現実はいろいろあります。高齢になるみなさんの体調には日々変化がある。そして住民同士や私たちとも誤解が生じたり、理解し合えないこともたくさんある。でも20年間、関わり続けていると不思議とわかり合えるときが来るんです。」と言われました。私はこれが差別と闘いながら“人とのつながりを築く”ことの本当の姿であると感じていました。

年末の慌ただしいときではありましたが、やっぱり参加してよかったと思えたフィールドワークでした。

